武庫北小だより

学校通信　　令和４年　３月１日（火）
（学校教育目標）心豊かで自主性のある子
（３月の生活目標）清掃活動で学校を美しくしよう

立つ鳥跡を濁さず

校長　武市　俊彦

３月１日から卒業証書授与式まで、わずか１４日間となりました。

「立つ鳥跡を濁さず」聞いたことがあるかと思います。意味は、立ち去る者は、見苦しくないようきれいに始末をしていくべきという戒め。また、引き際は美しくあるべきだということです。

自然学校やキャンプ場で「来た時よりも美しく」ということを言われたことがある人、看板に書いてあるのを見た人もいると思います。

6 年生の皆さんには、最上級生として、先輩として武庫北小学校の後輩たちに立派な姿を見せて、堂々と卒業していってほしいと思います。下級生たちは、6 年生に憧れをもっています。今までお世話になったことに対してお返ししきれないなあと思いながら、6 年生を送る会に向けて精一杯の準備をしていることでしょう。

以前、学校だよりに大谷翔平選手のことを紹介したことがあります。グランドに落ちているゴミをそっと拾い、自分のポケットに入れる姿が映像に流れていました。ゴミを拾う、挨拶をする、部屋を掃除する、道具を大切に使う、本を読む…これらのことは運を高めることにつながるという考えです。そして、皆さんがよく知っている所ジョージさんは、「面倒くさいことをする」ことが人のためになると考えているそうです。自分の大切な人が病気になった時、「代わってあげたい」と思う。そして、自分が病気になったなら「ああ、家族が病気にならなくて自分でよかった」と思うと言っていました。ゴミ出しをすることも「自分がするから、みんなはゆっくりしておいてね」と思うし、トイレットペーパーがなくなったら、自分の時でよかった。自分がかえたら次の人が気分よく使える、と思うそうです。

自分が自分が…と自分が得になることを考えるよりもずっと気分がよいのだろう、人に比べて損をしたときっと落ち込むこともないのだろうと感じます。所さんは、自分の人生がどんなだったかは、自分ではなく人が決めること。いつも「100 点をとらなければ」と思うよりも「自分が一生懸命やったかどうかが大事」だと言っていました。何度も失敗して色々な経験をして、繰り返し繰り返し挑戦していくうちに自分の力が伸びていく。そして、諦めなければきっと最後にはできるようになると優しい表情で話していました。

「立つ鳥後を濁さず」は自分がちゃんと評価してもらう（ほめてもらう）ためのものではなくて、自分が人のために一生懸命できるということに素晴らしさがあるのだと感じます。

本を読む、色々なことを経験する、多くのことを知る　どれも自分を高めるために大切なことです。武庫北の子どもたちは、「新聞や本を読むことが少ない」という結果が出ています。

私は、今年度「兵庫県ＮＩＥ推進協議会」に参加しています。（県小学校長会の副会長を務める尼崎市立武庫北小の武市俊彦校長は「新聞のあたたかみや魅力に気づかせていくための戦略が必要」と指摘した。＝5 月 27 日付産経新聞朝刊神戸版に掲載）ＮＩＥの３つの学びとして、【新聞とつながる】（低学年）【友だちとつながる】（中学年）【社会とつながる】（高学年）が記されています。

「大体を読み解く力」「正確に読み解く力」を身につけ、文学的・説明的文章を読み解き、実用的な文章等の全体像をつかみ、文章や写真・図・表・グラフ等の資料を読み解くことが求められています。見出しや写真・記事の感想を書いたり、自分新聞を作ったり、個人情報への配慮や悪口を書かない等のメディアリテラシーを育てることも大切です。本や新聞を読むこと、人に優しくすること、一生懸命に取り組むことを通して、魅力ある人に育っていってください。

6 年生の皆さん、卒業式での堂々とした姿を楽しみにしています。

☆☆☆